

## 「僕の小さな宇宙」

(2012)

前号で岩瀬氏が庭作りに触れておられたのを見て、我が事のように膝を叩いた。我が家の中庭の誕生は1975年である。この年、縁あって今 の土地を入手した。樹木など1本も無い250坪の更地だった。この土地が僕の自宅設計・庭作りの真っ白いキャンバスとなつた。土地を手に入れてからといふもの、日夜デッサンに没頭した。家については「鉄・ガラス」、庭については「森・落ち葉・芝生」……これがキーワードだつた。家を建てる前から小さな苗木を買ってきてはせつせと植樹に励んだ。

まず「森・落ち葉」の材料である落葉樹、**欒**・**楓**・**紅葉**・**銀杏**・**錦木** 等 の苗を植えた、小指の太さも無い小さな苗だったが、35年経つた今や、ひと抱えもある大木になり、秋には見事な紅葉と夥しいまでの落葉を見せてくれる。

常緑樹は**椎**・**檉**・**珊瑚樹**・**柊**・**黒金モチ**・**椰子**・**ドラセナ**・**南天** 等、そして道路側の日隠し・遮音用に50本の**伊吹**・**楨**の苗を植えた、今は淘汰もされて数は減つたが手に負えないほど大きくなつた。

「花木」も欲しい、**桜**・**桃**・**梅**・**蠟梅**・**山法師**・**木蓮**・**百日紅**・**椿**・**山茶花**・**木犀**・**泰山木**・**雪柳**・**藤**・**躑躅**・**皋**・**沈丁花**・**モッコウ薔薇**・**連翹** 等、全て小さな苗だったが、今や近くを通る人やバスのお客さんから花時を待ち望まれる程の大きな名物花木となつた。毎年、春になると夫々の花々

が微妙に時を違えて夫々の花時を迎える。

サラリーマンをしている時、いつか定年になつたら桜の花を追つて日本「南から北へ」、紅葉を追つて「北から南へ」旅をしようと本気で考  
えていたが、何の事はない、自分の庭で自分が植えた樹木がその夢を適  
えてくれていたとは！



白木蓮満開



錦木紅葉

居間から花見



「果実」も欲しい、枇杷・甘柿・渋柿・無花果・茱萸・葡萄・ブルー

ベリー・石榴・キウイ・柚子等、庭仕事をしながら文字通りの「摘み食い」をするのが何とも美味しい。

「吊し柿」、「梅干」、「果実ジャム」作りは我が家の中の春・秋の一大行事である。

「花」を育てるのは専ら家の仕事だが、種を撒いたり、株分けや挿し木をしたりして随分楽しませてもらつたが最近は段々不精になり静かに眺めるだけとなつてしまつた。今残っているのは手の掛からない宿根の花類が中心である。薔薇・牡丹・芍藥・紫陽花・凌霄花・梔子・芝桜・水仙・フリージヤ・菖蒲・鉢線・鬼灯ぼあづき・浜菊・白妙菊・凌霄花・番茉莉・クリスマスローズ・ジャスミン・ゼニア・君子蘭・ガザニア・薹日日草・クロリオサ・弁慶草・アブチロン 等々、ほつといても夫々の季節には新芽を出し、特に春は待つていていたように次々と咲く花々には感動させられる。

「芝生」は直径約10mの円形部分に最初は野芝の種を自分で撒いた。芝刈り機で刈れば結構小綺麗な「僕の空間」が生まれ、又子供達の遊び場ともなつた。東京転勤になつた時、一時我が家を借りてくれた人がゴルフ好きの某社長さんで、何と彼が野芝をすっかり高麗グリーン仕様に張り替えてくれたお陰で、やつと人並みの芝生広場となつた。子供達も出て行つた今は愛犬の遊び場・小鳥達の餌場となつてゐる。

何よりも嬉しいのは、いつの間にか下草の中に顔を見せ始めた「野

がつていてる。

裏庭で「畠」もトライしてみたが、収穫の割には手が掛かり面倒で、僕の手に負えない、カラスや蟻・虫に食われ散々な目に会い、彼らと戦うのはもう止めてしまった。···という事で比較的ほつたらかしでも毎年顔を見てくれるハーブ類（レモンバーム、ローズマリー、チエリーセージ、バジル···）・紫蘇・葱類・タラ・獨活・アスパラ・蕗の薹・蕗・茗荷・明日葉・山椒・アーティチョーク···等が細々と食卓に上



花「達である。白山吹・萩・石蕗・野萱草・野牡丹・雪の下・海老根・擬宝珠・重・ドクダミ・野菊・彼岸花・十一单・秋明菊・野苺・貝母・・・等が我が家の庭にも根付き、文字通りの「僕の森」が命を得て息づき始めた事だ。

全てが手作りで、我が庭は全く庭師のお世話にはなっていない、例外が二つだけある、家の完成祝いに頂いた蘇鉄の大株を庭師が来て植えてくれた事と、種が飛んで来たのを大切に育てていた2本の杉の木が高さ10mを越え僕の手に負えなくなり、空師に切って貰った事ぐらいだ。住宅地ならではの悲哀・・・以後は涙を呞んで全ての樹木の高さを5mに保ち、4m高さの梯子に登り自分で枝落し・剪定をしている。50kg底々の瘦身、白魚のような指でチエンソーとナタ、剪定鋏、刈払機を振り回している。落ち葉を踏み締めながらの静かな思索生活とは程遠く、今や枝の剪定、枯葉・下草の処理に忙殺され、汗をかきながらこの「樵仕事」が出来るのは一体あと何年だろうかとしみじみと思う。しかしその時が来たら来たで、岩瀬流に『根こそぎ叩き切つたら良かたい』といふ事にしよう。

万縁の小さき庭のわが宇宙  
花の芽に従う吾の日々なりし  
梅雨嵐 止みて息づく庭木立

我庭の万縁の中我想う

雷雨果て万縁いよよ脇らみぬ

た  
あ

庭に佇ち吾も万縁の息をせり



金木犀香る戸口の立ち話  
来客に又金木犀の話し継ぐ



庭の木々 深緑して風の止む  
熟柿食う幼き頃と同じ味



天高く家も守りし木守柿  
木守柿夕陽の中の高さかな  
今年こそ妻の精魂吊るし柿  
団栗の落ちる音して命继ぐ  
団栗が落ちて前世の夢終わる  
青柚子に雨滴りて光りけり  
巨峰の実小さけれどもわが小庭  
春の庭見終えて友は窓叩く  
薄紅の桜がり日々に梅含む  
紅梅に風白梅に風我も風  
梅の実の落ちておのれの彩となる  
梅の実は紅装いて風を待つ  
梅の実の薄紅纏う夜となる  
梅の実の女色して地に落ちる

2027.03.22

天高く家も守りし木守柿  
木守柿夕陽の中の高さかな  
今年こそ妻の精魂吊るし柿  
団栗の落ちる音して命继ぐ  
団栗が落ちて前世の夢終わる  
青柚子に雨滴りて光りけり  
巨峰の実小さけれどもわが小庭  
春の庭見終えて友は窓叩く  
薄紅の桜がり日々に梅含む  
紅梅に風白梅に風我も風  
梅の実の落ちておのれの彩となる  
梅の実は紅装いて風を待つ  
梅の実の薄紅纏う夜となる  
梅の実の女色して地に落ちる

実梅採る 落としぬよう両手添え

蠟梅の香り小庭を守りけり

